※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０４

令和８年度　学アート科

教科	学アート	科目	(学)身体表現入門	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし（授業内でいくつかテキストを使用。都度配布する）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

特別講師として、現在も関西で活躍する現役の舞台俳優を招き、「演劇」というツールを使ってコミュニケーションについて学びます。スピーチ、コミュニケーションゲーム等を通じて自分を客観的に捉え、他者に理解してもらうための、そして他者を理解するためのスキルを獲得します。

2　学習の到達目標

① コミュニケーションワーク、スピーチにより人間関係を作り、言葉だけではなく、身体を使って相手に伝える力を養う。そのための知識・技能を習得する。
② 共に表現することによって育まれるコミュニケーション力と傾聴力を養う。的確な表現を選択できているかの思考・判断・表現力が習得できる。
③ 演劇の方法論を用い、演じることを通じて、自己と他者との関係性の大切さを学ぶため、簡単なマイム、エチュードなどを行う。主体的に参加し取り組むことにより、より充実した学びが獲得できる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	スピーチ等における自己の認識・知識を言語化できるか。非言語表現における表現内容を理解・把握しているか。	コミュニケーションゲーム等のルールを理解し、的確な判断ができる。発表することで他者に伝達・理解が到達しているか。	ゲーム等に積極的に参加し、コミュニケーションスキルを上げるための努力をしているか。他者の発表を鑑賞し、理解・咀嚼・反応が的確に行えるか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	スピーチ	体感(1 分間計測) スピーチ	a:１分を体感し、話す内容をきちんと組み立てる b:他者に届く発表ができる c:他者の発表を聞くことができる。聞いて理解できる	１分が正しく取れているか、 スピーチ内容	発表状況	取り組み状況
	コミュニケーション	コミュニケーションゲーム (各種)	a:ルールが理解できる b:適切な反応ができる c:参加者全体での進行ができる	取り組み状況	取り組み状況	取り組み状況
	発声法	発声法(腹式呼吸・調音・滑舌など)	a:呼吸・発声のメカニズムを理解する b:ルールに従って発声できる c:発声法を体得する	発表状況	発表状況	取り組み状況
後期	発表	テキストを用いた発表	a:テキスト（台本等）を読みこなすことができる。感情によって言葉が発せられていることを理解する b:　感情を的確に言葉・身体での表現に落とし込み、練習・発表する c:チームワークであることを理解し、積極的に参加できる。他者の発表を鑑賞し、表現の内容を理解する。	テキスト記述	発表内容	取り組み状況
	即興表現	即興表現(台本を用いない表現)	a:表現したい内容を理解・把握している b:伝えるための的確な表現を選択・練習し、実際に表現できる c:集団をまとめ、目指す表現内容を効果的に伝達する	発表内容	発表状況	取り組み状況

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度